

第45回

福島県児童・生徒木工工作コンクール

表彰式

開催日時 令和2年11月28日(土) 午前11時

開催場所 いわきワシントンホテル 椿山荘

福島県木材青壮年協会

式 次 第

【表 彰 式】

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 来 賓 紹 介
4. 講 評
5. 表 彰
6. 祝 辞
7. 閉 会

【記 念 撮 影】

出席者名簿 (敬称略)

【ご 来 賓】

福島大学人間発達文化学類教授	新 井 浩 (あらい ひろし)
関東森林管理局磐城森林管理署長	鈴 木 明 (すずき あきら)
福島県農林水産部林業振興課長	前 田 洋 (まえだ ひろし)
いわき市長	清 水 敏 男 (しみず としお)
福島県木材協同組合連合会専務理事	佐 藤 守 (さとう まもる)
NH K福島放送局長	半 沢 治 久 (はんざわ はるひさ)
ラジオ福島いわき支社長	渡 邊 和 之 (わたなべ かずゆき)
磐城流域いわき地区林業活性化 センター事務局長	松 崎 正 信 (まつざき まさのぶ)

【主 催 者】

福島県木材青壮年協会会長	初 瀬 雅 洋 (はつせ まさひろ)
--------------	--------------------

【受 賞 者】

福島県知事賞	第1部	井 上 生 暉 (いのうえ いぶき)
”	第2部	志 賀 颯 太 (しが そうた)
福島県教育委員会教育長賞	第1部	石 井 そよか (いしい そよか)
”	第2部	齋 藤 瑠生雅 (さいとう るいが)
関東森林管理局長賞		田 口 元 音 (たぐち ながと)
いわき市長賞		舟 山 凜太郎 (ふなやま りんたろう)
福島民報社長賞		齋 藤 悠 汰 (さいとう ゆうた)
福島県木材協同組合連合会長賞		安 西 凜 真 (あんざい りま)
福島県林業会館理事長賞		杉 山 想 空 (すぎやま そら)
NH K福島放送局長賞		板 倉 圭 佑 (いたくら けいすけ)
ラジオ福島社長賞		山 崎 奏 音 (やまざき かのん)
福島テレビ社長賞		長谷川 琉 星 (はせがわ りゅうせい)
福島県木材青壮年協会	第1部	渡 部 樹 (わたなべ いつき)
福島県木材青壮年協会	第2部	澤 内 大 和 (さわうち やまと)

開催の趣旨

【目的】

再生可能な循環型資源として広く知られている木材は、地球温暖化防止に極めて有効な二酸化炭素の固定の手段としても注目を浴びています。このように優れた特性を持つ木材を実際に自分で切ったり、削ったり、組み合わせながら、香り・色・肌触り等の木の持つ良さを実感することで、未来を担う子どもたちの感受性を豊かにするお手伝いをしながら、木材の利用推進を図ることとします。

【主催等】

- ◇ 主催 ◇ 福島県木材青壮年協会・福島民報社・福島県木材協同組合連合会
- ◇ 後援 ◇ 福島県・福島県教育委員会・関東森林管理局・いわき市・
福島県林業会館・NHK福島放送局・ラジオ福島・福島テレビ

【応募資格】

- (1) 福島県内の小中学校の児童・生徒であること。
- (2) 木材及び林産物を主材料として利用・加工した創作品で、作品の大きさは一辺の大きさが60cmを越えないもの。

【審査基準】

- | | 配点（100点） |
|----------------------------|----------|
| (1) 子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの。 | 30点 |
| (2) 木の持ち味を活かし、独創性に優れていること。 | 30点 |
| (3) 機能、デザインが優れているもの。 | 20点 |
| (4) 工作技術が優れているもの。 | 20点 |

経過説明

【審査内容】

1. 出展作品数 総数371点（22校）
うち、各校より推薦のあった64点について審査した。
2. 審査会 令和2年9月11日いわき・ら・ら・ミュウにおいて、次の審査委員により「入賞者名簿」のとおり各賞が決定された。

◇審査委員長◇

(敬称略)

福島大学人間発達文化学類教授

新井 浩

◇審査委員◇

関東森林管理局磐城森林管理署長

鈴木 明

いわき農林事務所林業課長

阿部 正久

いわき市林務課長

佐藤 不二夫

福島県教育庁義務教育課指導主事

青田 伸一

福島民報社事業局長

関根 英樹

ラジオ福島いわき支社長

渡邊 和之

福島テレビ株式会社いわき支社長

岡田 健太郎

福島県木材協同組合連合会専務理事

佐藤 守

福島県木材青壮年協会会長

初瀬 雅洋



【そ の 他】

3. 全国コンクールへの参加

上位入賞作品については、令和3年1月～3月開催の全国コンクールに出展し、さらに入賞した作品については、令和2年6月19日(土)熊本市で開催される日本木材青壮年団体連合会全国会員大会会場において表彰される。

※実施日程については変更となる可能性が御座います。

4. 作品の展示及び展示期間

令和2年9月12日(土)～9月13日(日)

於：いわき・ら・ら・ミュウ 2階 会議室

受賞作品は県木連のホームページからも見ることができます。

木工工作コンクール記事 URL

<http://www.fmokuren.jp/publics/index/21/>

QRコードからも該当記事に繋がります。



講 評

第 45 回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査委員長

福島大学人間発達文化学類教授

新 井 浩

第 45 回福島県児童生徒木工工作コンクールの審査は 9 月 11 日にいわき市ら・ら・ミュウ会議室で行われました。その審査結果について講評を交えお伝えします。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、夏休みも十分に過ごせなかったということもあり、審査会場に並んだ作品はやや小ぶりでした。しかしよく見ると手の込んだ作品が例年以上に多く、レベルの高い審査会となりました。審査基準の確認ののち審査に入り、受賞作品は以下の通りに決定しました。

福島県知事賞第 1 部に選ばれた井上生暉君の〈くものかり〉は大小の枝、葉っぱなどを使って蜘蛛が獲物を捕らえた様子を表した作品です。元枝から小枝が出ている形をうまく組み合わせ、蜘蛛の巣のように表現したところに独創性と形の良さがありました。拡大された蜘蛛の迫力もあって、知事賞にふさわしい作品になりました。

福島県知事賞第 2 部に選ばれた志賀颯太君の〈おじいちゃんの工場〉は工場内外を再現した作品で、屋根をはずすとおじいちゃんが愛用した大型の木工工作機械などが表現されていました。深い思い入れを感じる作品で、こちらも知事賞にふさわしい作品でした。

県教育委員会教育長賞第 1 部に選ばれた石井そよかさんの〈ALOHA〉ではフラガールが踊る様子が表現されていました。首飾りや腰ミノなどフラダンスを踊る女性をよく観察して表現したのが高評価につながりました。

県教育委員会教育長賞第 2 部に選ばれた齋藤瑠生雅君の〈流木の形から・・・〉では、流木や葉っぱを使ってハシビロコウというくちばしの大きな鳥が表されていました。流木の形を見たらくちばしの形を連想した点は、とてものびのびして自由自在な心の動きです。ぜひ大切にしてほしいと思います。

関東森林管理局長賞に選ばれた田口元音君の〈りゅうぐうのつかい〉は深海に住むリュウグウノツカイという魚の、気高く優美な様子が見事でした。本体と長く伸びるヒレは流木で作られ、そこに木の削りかすを細かくあしらって、荒々しいサンゴから姿を現した様子が効果的でした。

いわき市長賞には舟山凜太郎君の〈カブトムシ VS クワガタ〉が選ばれました。作品は表皮をはいだ木肌で甲虫の背中を表したものです。小枝をつないだ足も繊細でよかったです、

木の年輪部分をクワガタのハサミに見立てたところは秀逸でした。

福島民報社長賞に選ばれた^{さいとうゆうた}齋藤悠太君の〈フタバスズキリュウ〉では温かい風合いのある流木でフタバスズキリュウが造られていますね。体のどの部分にどんな流木を使うと効果的かが考えられ動きのある形になっているところが素晴らしいと思います。

次は県木連会長賞に選ばれた^{あんざいりま}安西凜真さんの〈木を登るペットのイモリ〉です。凜真さんは昨年も同賞受賞で、木工工作コンクールに一番ふさわしい作域を持っているのだと思います。ペットのイモリを見る視線が温かいことが、選ばれた流木の表情や組み合わせ方から伝わってきます。

県林業会館理事長賞に選ばれた^{すぎやまそら}杉山想空さんの〈木の公園〉ではハシゴが編んで造ってあります。自然物で不整形な木を、手間をかけた造ったことにより温かみと夢を感じさせる造形になりました。

NHK 福島放送局長賞に選ばれたのは^{いたくらけいすけ}板倉圭佑君の〈トライホーンドラゴン〉です。子ども達に大人気のカードゲームなんですね。突き出た小枝を爪に見立てたり、角を切り取って背中の中に見立てたり、迫力のある様子が再現されていました。

ラジオ福島社長賞に選ばれたのは^{やまざきかのん}山崎奏音さんの〈どんな時でも変わる季節 夏～秋〉でした。カンナ屑を花びらに見立て、木のチップなどを丁寧に重ねて造ってありました。作品タイトルから作者が作品に込めたであろういろいろな想いが感じられます。

福島テレビ社長賞には^{はせがわりゆうせい}長谷川琉星君の〈海で泳ぐタコ〉が選ばれました。枝やカンナ屑で大きなタコが形づくられ彩色されていました。大きなタコを造ることに挑戦し、完成までやり遂げたことが見事でした。

県木青協会賞第 1 部に選ばれた^{わたなべいつき}渡部樹君の〈つのがりっぱなトナカイ〉は太い枝から小枝が密生して生えたところが、トナカイの角に見えたんですね。この木を見つけた時のちょっとした連想が生き生きしていて、愛らしい作品になりました。

^{さわうちやまと}澤内大和君の〈クリスタルの鉱山〉は県木青協会賞第 2 部に選ばれました。水晶をどう造るかと考えた時に、鉛筆の形がひらめいた時は愉快だったと思います。鉱山内部の全体の様子もうまく造られていたと思います。

さて、今回のコンクールでは子ども達のコメント欄に記載された、工夫した点や頑張った点がよく目に付きました。もともと何十年何百年と生きてきた樹木は、樹種や生育過程によって様々な癖を持っています。工夫した点や頑張った点の多くは、こうした癖とどのように向き合い、折り合っていくかという内容でした。子ども達は計画を少し変更したり、

いままでなかった対処法を獲得しながら工夫をしていました。

木工や工作はそれぞれ目的があっただけでおこなうことですが、そうしたさまざまな課題を乗り越えていく過程で育つ力量をラーニングアウトカムと呼び、近年では大いに注目されています。

こうした子ども達の内部に育まれた力は、これから生きていく上で必ず役立ちます。樹木に限らず私たち人間や、私たち人間が作った社会も癖がありますから、それとどのように折り合いを付けていくのか、教科書と向き合っているだけでは学べない学びが木工工作には存在するのです。

子ども達が木工工作の過程で育んだ力量が、人や社会と調和して生きていくための大きな力になることを願って、講評の言葉といたします。

入賞者名簿

【最優秀賞】				
福島県知事賞 1 部	くものかり	いわき市立泉小学校	2 年	いのうえ いぶき 井上 生暉
福島県知事賞 2 部	おじいちゃんの工場	いわき市立御厩小学校	5 年	しが そうた 志賀 颯太

【優秀賞】				
福島県教育委員会 教育長賞 1 部	ALOHA	いわき市立郷ヶ丘小学校	3 年	いしい 石井そよか
福島県教育委員会 教育長賞 2 部	流木の形から…	いわき市立御厩小学校	6 年	さいとう るい が 齋藤 瑠生雅
関東森林管理局長賞	りゅうぐうのつかい	いわき市立小名浜第二小学校	5 年	たぐち ながと 田口 元音
いわき市長賞	カブトムシ VS クワガ タ	いわき市立泉小学校	1 年	ふなやまりんたるう 舟山 凜太朗
福島民報社長賞	フタバスズキリュウ	いわき市立泉北小学校	5 年	さいとう ゆうた 齋藤 悠汰
福島県木材協同組 合連合会長賞	木を登るペットのイ モリ	福島市立野田小学校	5 年	あんざい りま 安西 凜真
福島県林業会館理 事長賞	木の公園	いわき市立大野第二小学校	3 年	すぎやま そら 杉山 想空
NHK 福島放送局 長賞	トライホーン・ドラゴ ン	いわき市立平第五小学校	4 年	いたくら けいすけ 板倉 圭佑
ラジオ福島社長賞	どんな時でも変わる 季節 夏～秋	いわき市立泉北小学校	6 年	やまざき かのん 山崎 奏音
福島テレビ社長賞	海で泳ぐタコ	いわき市立小名浜第一小学校	6 年	はせがわりゆうせい 長谷川 琉星
福島県木材青壮年 協会長賞 1 部	つのがりっぱなトナ カイ	柳津町立柳津小学校	1 年	わたなべ いつき 渡部 樹
福島県木材青壮年 協会長賞 2 部	クリスタルの鉱山	いわき市立泉小学校	5 年	さわうち やまと 澤内 大和

【入選】				
福島県木材青壮年 協会賞	ボタンの世界	福島市立野田小学校	4年	まつだ りお 松田 麗央
	森の公園	いわき市立御厩小学校	2年	えんどう さき 遠藤 早姫
	とんぼ	いわき市立勿来第二小学校	1年	ふにゅう あこ 舟生 亜心
	ダムをめいろ	いわき市立小名浜第三小学校	4年	ふくしま ゆうた 福島 悠太
	ロッジ親子の鳥の家	いわき市立夏井小学校	3年	こばやし ひより 小林ひより
	でんせつのアマビエ	いわき市立磐崎小学校	2年	いとう あいり 伊藤 愛理
	ノコギリクワガタ	いわき市立郷ヶ丘小学校	2年	やました こうき 山下 晃季
	とんぼ	いわき市立赤井小学校	2年	たかはし こうたろう 高橋孝太郎
	古い木の家	いわき市立中央台東小学校	3年	おみ けんき 小見 憲輝
	おだやかな秋	いわき市好間第一小学校	4年	しもさか かいと 下坂 海翔
	縄文時代の家	いわき市立泉北小学校	5年	きとう くりゅう 佐藤 来龍
	わりばしバイオリン	いわき市立泉北小学校	6年	いしばし たつき 石橋 樹